

【会員紹介コーナー】 No.172

今月は「JAIGZV 魚留 元章さん (KCJ#552)」です。

【ハムの原点 CW に魅せられて】

KCJ#552 JAIGZV 魚留 元章 (MOTO)



移動運用先で

電信級アマ取得

私の電信との関わりは、小学校5年生頃の理科の授業で、釘にエナメル線を巻いて電磁石を作り電池をつないで回路を断続し、鉄片をカチカチ吸引させる電信機の製作でした。中学校に入った頃からゲルマ、並三、高一、スーパーの製作と進み、偶然組みあがったばかりの五球スーパーラジオに「ポコポコ」と海岸局のCW電波が飛び込んできたことがきっかけで、「無線といえばモールス通信」というイメージを強く持ちました。そしてBCL、SWL活動を通じモールスのことやハムの存在を知りました。

ところがハムになるには国試という難関があることを知りました。1960年代当時CQ出版から「ハムになる本(アマチュア無線入門テキスト)」はじめ「中学生のハム入門」などが出ており、これらを参考にまずは電信級を目指して取り組みを始めました。最初は紙に書いた表から、・ーはA、ー・・・はBというように、符号を一つ一つ視覚で覚えていきましたが、モールス・フォノシートを使った音での受信練習を繰り返すうちに、1~2か月ぐらいである程度の欧文符号は取れるようになっていました。当時の電信級の国試は学科のほかモールスは試験官が叩く符号を全文書き取る受信試験、試験官とマンツーマンで向き合った送信試験があり、試験日前日にはモールス受信用フォノシートを使って繰り返し音を聞いて紙に書く練習したことが功をなし、何とか実技試験も無事切り抜けることに成功しました。

ハム局の開局

こうして初めて手にした「電信級アマチュア無線技士」の免許証ですが、これをもとに早速リグの製作に取り掛かり、開局時は3.5/7MHz帯のA1モードからスタートしました。受信機は自作五球スーパーにNSBチューナーとトリオのBF0-Aコイルを組み込んだもの、送信機は自作6AQ5シングルの入力10W、アンテナは鉄筋アパート屋上の竹竿ポールに架設したダブレットといった貧弱なもので、FT243水晶発振子と自作VF0の切り替え式で運用していましたが、VF0の安定度が悪く発振回路を修正、LCボックスの実装方法や温度補償、電源の安定化など発振周波数のドリフト対策には苦労しました。その後、受信系統はトリオ9R-42Jに国際電気のナローMFを挿入して親受信機としSM5などのプリセレ・コンバータなどを付加して高感度化を図った結果、1年ぐらいの間に10WでDXCC(CW)を150カントリー以上稼ぎ出すことができました。



自宅シャックで

上級ハムにステップアップ

気を良くして翌年に旧二アマを取得。さらに、和文を覚えて翌々年に旧一アマへステップアップしました。その後、学生時代を経て就職したのが電気通信分野の職場だったので、上司から資格取得奨励パワハラ?の効果もあり業務に必要な総務大臣発給の有・無線の資格のすべてを手にすることができましたが、これらのステップアップにもアマチュア無線でのCW含めた運用経験などが大いに役に立ちました。現在はアマチュアの国

試にモールス試験はありませんし、パソコンソフトの CW 学習サイトも充実しているなど独学でのモールス学習環境も格段に向上し昔と比べ隔世の感があります。

移動運用の楽しさ

1991 年から 3 年間、仕事でチリのサンチアゴに在住していたので、CE 内のほか、仕事での出張や休暇を利用しては近隣の OA、CP、CX、LU 及び ZP へは良く出かけて移動運用を行ってきたのをきっかけに移動運用の楽しさにはまり、これまでコロナウイルスが出現する前まで国内島嶼部、アジア、オセアニア、北米、南米及びヨーロッパ地域から移動運用を行ってきました。海外はほとんどが臨時運用許可によるものですが、良く訪れる国は現地国の試験を受け更新可能な通常ライセンスを取得し対応しています。臨時運用に関しては FCC ライセンスのほかに 1 アマが CEPT 対応になったことから、総務省が無料で CEPT の裏書証明書を発行してくれますので、これを利用すれば相手国により CEPT T/R 01 または 02 による EU 方面での海外運用も容易となり、移動運用先での活動範囲も広がることでしょう。

ほかの趣味

アマチュア無線以外では登山、スカイスポーツ、船を使った釣りなどのアウトドアを楽しんできました。SOTA にも参加し、時々山からも電波を出しています。スカイスポーツは大阪に在住していた 1973 年ごろに大阪八尾空港で開催された小型飛行機の体験教室に参加したのをきっかけに興味を持ち、初めて操縦桿を握ったのも大阪の八尾空港でした。ライセンス取得後は米国 (FAA) やオーストラリア (CASA) のライセンスに書き換えて気象条件が良い米国西海岸やグアム、オーストラリアなどで隔年に一度の頻度で訓練兼ねて飛んでいましたが、コロナウイルスの蔓延以降は中断しています。ライセンスは技能証明のほかに航空英語能力証明 (国際飛行有の場合)、航空無線通信士、航空身体検査証明の 4 つが最低限必要になります。セスナ 195 やステアマン A75 にも乗ったことがあります。離陸時、下から持ち上げられるような星形エンジンの強烈なパワーの印象が今でも忘れられません。



Piper PA-38 Tomahawk

一方、陸地からのほかにも船からの釣りは楽しいものです。小型船に必要なライセンスは 1980 年代に横浜で取得しましたが、ちょうど STCW 条約が発効した直後とあって当時の実技試験は海図作業や六分儀を使った天文航法、ロラン・無線航法施設などを使った電波航法、トラバース表など使った推測航法や機関に関する知識が問われましたが国のマリンレジャー普及策の規制緩和で 2004 年から 5 つあったライセンス区分が 2 つに集約され、試験内容も極めて易しくなりマリンレジャーが身近に楽しめるようになりました。

私のモールス通信の楽しみ方、運用スタイル

最近各バンドの CW を運用していて気が付くことは和文ではラグチューをしている方々がおられる半面、欧文になると 599BK 方式の QS0 がほとんどとなって二極化が進んでいるように思えます。CW に限らず SSB でも無線での会話を楽しむことが減少しデジタルモードのヘシフトしているように感じられますが、このような現象は日本だけでなく、世界的な傾向でもあるようです。私は過去 DXCC 含めいくつかアワードを取得しましたが、現在ではあまり興味が湧かず現状維持の状態が続いています。しかし海外運用や主要な DX コンテスト等には積極的に参加するようにしています。現在のところ海外 QS0 が約 6 割、海外運用約 1 割、国内 QS0 約 3 割程度で QS0 の 99.9% が手動 (ストレート・キー、バグ・キー) による CW です。アンテナは近所に目立たなくメンテナンスも楽なワイヤー系を中心に使っていますが、パイルに打ち勝つ必要もないので、これらのアンテナとベアフットで十分です。運用の目標はできるだけ QS0 の内容の向上を目指すよう心がけていますので、もし聞こえていましたら、是非お声がけいただければ幸いです。日本及び世界中の方々と会話を通じた人的交流によって人生を豊かにしてくれる CW は私にとって一生の伴侶です。



古いキー・コレクション

JA1GZV (W9AW/MOGAA/VK8DX)

KCJ#552 (AAA, A1C, A1op, B. U. G, CDXC, CWops, FOC
, HSC, TBDXC)

●リグ:200W

●アンテナ:全長 40m ツエップ (平衡給電)
7MHz 用 1 波長デルタループ
160m 用フルサイズ逆V など

平衡給電線ライン

'